

第8回 平成31年度 卓越研究員助成事業

計算社会科学と その周辺セミナー

「情報学で世界を平和に2-バタフライ・エフェクト-」

「領域知識創出のためのビッグデータ活用」

【日時】

2019年7月25日 (火) 13:00~15:30

【場所】

群馬大学荒牧キャンパス教養教育棟1階 GB155講義室

【対象/定員】

一般・学生/先着 500名

近年スマートフォンなどのデバイスや公衆ネットワーク網の普及により個人と個人のWebとの関わりがより一層広がりました。

今や、私たちは時間や場所の制約を超えてWeb上で様々なトピックスに関して議論や交流が可能です。

また、実空間での様々な人々の自発的な情報行動などの詳細は様々なデバイスにデジタルデータとして記録・蓄積されるようになり、このような大規模社会データを情報技術によって分析する研究が進みつつあります。

この学問を人間行動・社会現象を定量的に理解しようとする「計算社会科学」(Computational Social Science)と言います。

本セミナーでは、国内外での計算社会科学の普及・発展を目指し、政治学、物理学、経済学、数学、社会学、情報学などの様々な分野の研究者により活発に情報共有・議論を行う場を提供することを目的とします。

「情報学で世界を平和に2-バタフライ・エフェクト-」(13:00~14:10)

講師:水野 貴之

<国立情報学研究所 情報社会相関研究系 准教授>

【概要】

昨年度は「情報学で世界を平和に - ぎみは武力紛争の被害者か?加害者か? -」について、複雑なグローバルサプライチェーンを情報学で紐解くことにより、紛争地と我々との繋がりと、その責任を示した。本年度は、複雑に絡み合ったグローバルオーナーシップを紐解くことにより、我々の株式売買が、ブラジルの1匹の蝶の羽ばたきがテキサスで竜巻を起こすかのように、全く関係のない第三国の経済に影響を与えていることを示す。このようなバタフライ・エフェクトを利活用することにより、核を持たない我々が、国際紛争を回避する抑止力になりえることを示す。

休憩(10分)(14:10~14:20)

「領域知識創出のためのビッグデータ活用」(14:20~15:20)

講師:大西 立顕

<東京大学 大学院情報理工学系研究科 ソーシャルICT研究センター 准教授>

【概要】

あらゆる分野で大規模データ活用による新規研究成果の創出や社会的課題の解決が期待されている。ビッグデータ活用が重要となった背景を解説した後、データから導かれるスケールリング則を用いて算出した都市規模に見合った適切な施設数の推定、人口データと電話帳データを用いた買物困難地域推定などの研究事例を紹介する。複雑な化合物の構造を超高次元ベクトルで表現し、膨大なデータベースから逆合成経路を予測する研究などにも触れ、ビッグデータからの価値創造について議論する。

質疑応答(10分)(15:20~15:30)

司会:群馬大学 社会情報学部 助教(卓越研究員) 川畑泰子

主催:群馬大学 社会情報学部 計算社会科学研究室

共催:群馬大学 社会情報学部附属社会情報学教育・研究センター

【お問合せ】

TEL: 027-220-7403

(群馬大学 社会情報学部総務係)

E-mail: kawahata@si.gunma-u.ac.jp

(群馬大学 社会情報学部 計算社会科学研究室)

